

全力を尽くす  
感動が、

力を尽くして全力で物事に挑む姿は、心を打つもので  
す。たとえ結果につながらなくても、その経験そのもの  
が、自身にとってかけがえのない財産となるものです。

A氏は、かつて甲子園出場を目指した野球少年でした。  
自身でプレーしなくなった今も、プロ野球観戦は一番の  
趣味です。毎年、新しい年が明け、12球団がキャンプに  
入る頃になると、シーズンの開幕が今か今かと待ち遠し  
くなります。

そんなA氏ですが、毎年7月頃だけは、プロ野球の話  
題が少なくなります。理由は、甲子園を目指して闘う高  
校野球のシーズンが始まるからです。

全国高等学校野球選手権大会、通称「夏の甲子園」は、  
昨年、100回記念大会を数えました。毎年、全国約3  
800校が参加し、野球ファンのみならず郷土の代表を  
応援する、夏の風物詩ともいえる大会です。

高校3年生にとって、夏の大会は「負けたら明日はな  
い」特別な大会です。勝ち上がらない限り、高校生活最  
後の大会になるからです。球児たちは、入学から2年と  
数カ月の限られた期間、甲子園を目指して朝に夕に厳し  
い練習を重ねます。その成果を最後の大会に出し切ろう  
と、全力を尽くしたプレーが繰り返されます。

もちろん、春の甲子園大会や日頃の試合でも、決して  
手を抜いているわけではありませんが、「負けたら明日は  
ない」状況は、「負けても明日がある」状況に比べて、同



1月のテーマ | 全力を尽くす

# 全力を尽くす時 更なる力が湧く

試合でも、別の空気が醸し出されるものです。

一歩も退くことのできない、絶体絶命の状況を指した  
「背水の陣」という言葉があります。強大な敵を前に、  
自軍の兵の練度が低いことを知った将は、川を背にした  
常識外れの布陣を引きます。退けば、溺れ死ぬしかない  
状況に必死になった兵士が奮戦し、勝利を得たという中  
国の故事を元にした言葉です。

人間は後がない状況や非常の場面において、通常では  
考えられないような能力を発揮することがあります。技  
術的に見れば、プロ野球選手に比べて未熟であるはずの  
高校生が、プロの試合でもなかなか見ることのできない  
ようなスーパープレーをやったのける瞬間などは、まさ  
にそうした場面でしょう。

作り出された状況であれ、咄嗟の行動であれ、そのこ  
とに対して全力を尽くさなければ、良い結果が生まれな  
いことは明白です。先のことを考えて力を出し惜しむこ  
とは、実際に、先の場面に到達した時にも先を考えて、  
力を出し惜しむことにもなるでしょう。

A氏は、「夏の大会で負けた球児たちが泣くのは、ただ  
悔しいからじゃない。全力を尽くして闘った結果が負け  
となり、これで高校野球も終わるんだと思うと、自然に  
涙が流れるんだよ」と、自身の経験も踏まえて語ります。

涙を流すまで……とは言わなくとも、事の終わった後に  
「全力を出し切った」と感動できる場面を数多く持ちた  
いものです。